

平塚めぐみ幼稚園緊急時対応計画

《緊急連絡について》

☆緊急連絡網とホームページを同時活用する。

☆ホームページは携帯用に出来ていないが、写真以外は閲覧可能である。ただし、緊急時に閲覧が可能かどうかのテストが出来ていないため有効ツールかどうかは定かではない。

☆メールアドレスは園では管理しない。(今後も管理の予定なし) メール受け取りに時間差が生じる可能性があるため、有効ツールではないと判断。

☆停電や混線で緊急連絡網が円滑にまわらない場合は、連絡開始から1時間の段階で園に報告がなかったら、連絡出来ない状況であると判断し、園より連絡する。停電だと携帯が有効であるが、混線だと携帯よりも家庭の固定電話が有効である。

《平塚市が震度5弱以上の大地震にあったら、保育中止、園児引渡し》

☆保育中ならば保育中止をして机の下などへの一時避難をし、その後園庭に避難する。

☆電話が使用できないことを想定し、緊急連絡網なしに引渡し態勢をとる。そのため連絡がなくても保護者は幼稚園に園児を迎えにくること。

☆園長、全担任教師は子どもの安全優先業務、事務長は関係各所への緊急連絡業務に従事

☆徒歩登降園途中の場合、その場にて体勢を低くし保護者に登降園路をたどってもらい迎えを待つ。ただし、幼稚園の近辺の場合は幼稚園に避難する。出発して間もない場合は出発地点に戻ることもある。

☆バス登降園途中の場合、バスがどの時点で地震に遭うのかでも状況は異なるが、基本的には自宅まで送迎する手段よりも幼稚園に戻る手段を考え、幼稚園にてお迎えを待つ。

☆震度5弱以上の地震の場合は保育中止、その日のうちに再開することはない。

☆課外教室も同様に震度5弱以上の地震の場合は連絡がなくても中止とする。

《大津波警報の発令》現在検討中

候補①平塚市立松延小学校屋上への避難→津波がおさまり次第、小学校にて順次引渡し

候補②園バスや教師自家用車に園児を乗せて高台に避難→おさまり次第、園にて引渡し

(めぐみが丘、日向岡、五領ヶ台貝塚が候補地、混雑の可能性があるのでしぼれない)

＊候補①に危険な場合は候補②を判断するが、ほぼ候補①に避難する。避難先が変わる場合の連絡手段は定まっていない。

《お願い》

地震発生の場合、園から連絡を流せません。テレビ、ラジオ、市の広報などで地震の規模等を把握して、発生後は速やかに引き取りをお願いします。

緊急時園児引き取り者を決めて記入しましょう。引き取り後も園児を保護できる方
①
②
③

平塚めぐみ幼稚園緊急時対応計画

平塚市震度5弱以上の地震発生・大津波警報発令・東海地震注意情報発令

→保育中止・園児保護者へ引き渡し（緊急連絡発信なし）

	幼稚園	保護者
震度5弱以上の場合	<ul style="list-style-type: none"> *机の下などに一時避難 *防災頭巾をつける *園庭に避難 *保護者を待つ *園庭の遊具は使用禁止 *教師は子どもたちとの会話につとめる *教師は子どもたちに緊急時であることは伝えても、必要以上の緊迫感や緊張感を与えない努力をする *全園児引渡し終了までは園庭で待機 *園舎・ホールの安全が確認されたら、室内にて待機 	<ul style="list-style-type: none"> *状況を判断して引き取りに向かう *焦らないで自分の安全確保 *連絡をとることを考えるよりも、とにかく幼稚園までたどり着く手段を考えること（時間がかかっても大丈夫） *一番危険なのは園にいる子どもよりも、迎えにいかなくてはいけない保護者であることを認識すること *引渡しの際は、必ず名乗ること「〇〇の母（父）です」など
大津波の場合	<ul style="list-style-type: none"> *地震時と同様の対応をとる *小学校屋上に避難準備 *屋上にて避難 *おさまり次第引渡し開始 *全園児引渡し終了までは小学校で待機 *候補②は候補①が危険な場合に判断 	<ul style="list-style-type: none"> *地震時と同様の対応をとる *平塚市立松延小学校に向かう *松延小に待機していない場合があることを考慮しておくこと
東海地震	<ul style="list-style-type: none"> *地震時と同様の対応をとる 	<ul style="list-style-type: none"> *地震時と同様の対応をとる
事前の心構え	<ul style="list-style-type: none"> *月に1度の避難訓練を徹底する *必要以上に子どもに緊迫感を与えないような話し合いをする *教師が臨機応変に対応できる力を身に付ける *教師の対応に全てがかかる危機感を教師一同が共通理解する 	<ul style="list-style-type: none"> *引き取り者が誰なのかを話し合う *必要以上に緊迫感や恐怖感を感じないような緊急時の話し合いをする *園児が日常の自分で出来ることを一つでも多くしておく(身の回りの始末など)

